

微笑庵便り、ホームページ用と会員用に毎月大体2パターン書いています。当初、初心者の方の為に基本的な彫り方や考え方を少しずつ解説していったらと書き始めたのですが、教室を探している全く経験のない方には何を言っているのか分からないでしょうし、教室で学んでいる会員の方には少しでも普段の学びの参考になる事という事で、おのずから、その内容が変わってきました。現在教室用では仏頭を取り上げており、いつのまにか21まで来ました。少しまとめの回になりますが、自分が理解したことを、図に書いてみる、言語化してみる、そうすることで、できることとできないことが少しずつクリアになっていきます。その一助となるよう心がけて書いているものです。今回は教室の雰囲気を感じていただけたらと、そのまま転用いたします。

仏頭 21

“輪郭”という言葉がピンとくるでしょうか？単純に言えば“一番外側のライン”です。たとえばシルエットとして考えてもらうと分かりやすいかもしれませんが。頭部の真正面のシルエットは単に風船に耳がついているような感じ、真っ黒だと目や口、鼻でさえも全く埋没してしまい、形どころか位置も分かりません。これがある意味仏頭の難しさ、輪郭に現れないものの位置や深さを特定するのはとても難しい作業です。

仏頭を作る時は大まかに頭の部分を丸くして、耳を出したら5本の線を引き面取りをしていきますよね。この最初の面取りで、目、鼻、口、顎の位置が出てきます。とりあえず正面から見た位置関係が見えてくるのですが、まだ、深さは全く分からない。第2段階として側面からの形、深さを出していきます。鼻根を沈めて鼻筋のライン、額の傾斜を出し、鼻根が沈むことで相対的に眼球がかなり高くなるので、上瞼の部分を取る。上瞼が取れると下瞼の部分が浅くなるので、下瞼を深くする。上瞼から下瞼までしっかり丸みが着地したら、その高さで目の下を平らにする。この作業で、鼻の頬と接しているところが少し浮き加減になるので、しっかり着地させる。鼻の側面を取り直し、鼻の下の面を入れ直す。鼻の下の口に行く面の高さや角度を調整する。口の両脇の最初の面取りで階段状になっている面を直の面にする。正面で階段状に取ったことで深さが出ていたので、ここで面を直線に戻しても大丈夫。丸刀で口の形に突けば、大体形は出てくる。口角の部分は頬とぶつかっている深さのところで消すこと。突きこんで傷をつけないように。下唇から顎にかけてのラインを作れば、大体横顔は出てくる。

正面で位置を出し、横顔でラインと深さを組み立てていく感じ。横顔は一番外側の輪郭線の中に、もう一つ眼球や、頬の作るラインがある。これがおもしろくもあり、難しい所。ざっくり文章で書くとこんな感じなのですが、この文章にそのまま反応出来たら、相当仏頭彫れるようになっていると思います。

新型コロナ&猛暑と今年はかつて経験したことのない夏になりました。少し涼しくなり楽になりましたが、ちょうど疲れが出てくるころ、どうぞ皆様ご自愛ください。

